

## 附録 紙印刷版からの改訂について

このモノグラフは、二〇〇八年一月末に提出したPDFファイルによって印刷製本された。印刷会社との契約や予算の制約があり、図表のなかに、印刷設定が不適切なためか、解像度が低くて見にくいものがあつたのを改めることができず、また、提出後の研究の進展などを反映する形で若干の加筆訂正を加えることもできなかったため、紙印刷版は著者にとって不本意なものとなつてしまった。このWEB公開版のPDFファイルを普通のプリンタで印刷すれば、図表の解像度は十分高い状態で出力される。また以下のように本文の加筆訂正を行った（最初の行に紙印刷版の頁・行数を示し、削除部分は二重取消線、加筆部分は黄色の蛍光ペンを加えた）。

### 八一頁六行

りあとに造られたと思われる善光寺の本尊となつた秘仏は、一つの後光に阿弥陀三尊があらわれる一光三尊である。一光

### 八五頁四行

皇<sup>11</sup>大官を願主とする官寺の筆頭と位置付けられ、さらに藤原京時代には大安寺と改称され、光明朝の靈龜二

## 八六頁五行

「はじめは移転<sup>とも</sup>も以降に、非正統仏教的なものが官寺から排除されて、善光寺本尊等も信濃に移され、「古縁起」

## 八六頁一五行

首都の外に移されたのは文武の次の无明天皇—上皇時代（康雲四（七〇七）—養老五（七二二）年）—その後、平城京遷都以降とい

## 九八頁一三〜一四行

生誕物語や善光寺縁起に影響したと考えることができる。

『日本書紀』の聖徳太子伝作成に藤原不比等や道慈のほかに長屋王が関与していたであろう（大山「一九九九」一五二〜六一頁）ことは、飢者説話（推古天皇二十一年十二月一日条）の地である片岡が長屋王の所領であることから窺え、聖徳太子生誕をイエス生誕になぞらえて描いたのは長屋王であろう。そして、唐で景教を知っていた道慈との間に確執が生じ、政権中枢の権力闘争と連動して長屋王の変に至ったのであろう。

『日本書紀』天武天皇十一年三月十三日条に、境部連石積らにはじめて『新字一部四十四卷』を造らせたとあり、『釈紀所引私記』に「師説。此書今在図書寮。但其字跡頗似梵字」。未詳其字義所「準拠」乎」とある（坂本ほか校注「一九六五」補注29―121）ことから、そのころ、梵字に似た、後世解読できなくなった文字で記された文書が少なからず存在したことは明らかである。古代日本に伝来したキリスト教は漢訳文書のある唐経

由の景教ではなく、インド経由と思われるので、国際標準語であったアラム語系のシリア語で記されていたはずであり、梵字に似ているとされる『新字一部四十四卷』はそれらをまとめたものではなからうか。

インドよりも西方の三尊を説く点で、キリスト教の三位一体と阿弥陀三尊は共通し、ごく自然に、両説の帰

一三四頁一七〇一八行

説明できる。長屋王の変が、キリスト教的要素を異端として排除する決定的な出来事であり、おそらくシリア語文書であった『新字一部四十四卷』も平安期には解説不能となり、散逸してしまった。

善光寺がその由来を欽明朝における仏教公伝に結びつけるのは、科野氏と百済との関係や、滅亡した百済王

一三六頁六行

四日陸奥守に再任された。金産出（金産出）のことは天平二十一年二月二十日（天平二十一年二月二十日）にはじめて見え、

一三六頁一三〇一四行

て、天平二十一年四月一日の東大寺行幸の際、敬福は大仏の前で従五位上から従三位に異例の昇進を賜った。

金産出・献上は天平二一（七四九）年二月二日であった。天平二十一年は長屋王の変の二〇年後であり、さらに、二月二日は長屋王の忌日の十日後で、天平八年ころから光明皇后らによって長屋王と同一視されるようになったと思われる聖徳太子の忌日とされた日（『日本書紀』による忌日は二月五日）であることからして、東大寺大仏建立は長屋王（長屋王）聖徳太子（聖徳太子）キリストを祀るためのものであったこともわかる。

盧舎那仏は太陽神に由来し、その右の虚空蔵菩薩は金星を化身とし、盧舎那仏と虚空蔵菩薩、太陽と金星は、

一三九頁一六行

の信州還座は豊臣政権崩壊の~~止~~端緒であるとともに、より分権主義的な家康が東国に幕府を開く伏線ともなった。

なお、「目次」にこの「附録」を加えたほか、「参考文献」中のURIを簡略なものや現在有効なものに改め、Adobe Readerで開けばハイパーリンクがつくようにするなどしたが、論旨にかかわるものではないので加筆訂正の詳細は省略する。

また、左記は紙印刷版提出以降に執筆したものであり、**加筆部分**に関する詳しい考察を含んでいるので、ご参照いただければ幸いです。

平山朝治二〇〇八（近刊）「長屋王の聖徳太子」『筑波大学 経済学論集』第六〇号（URIは未定）

（以上、二〇〇八年一月一九日に記す）